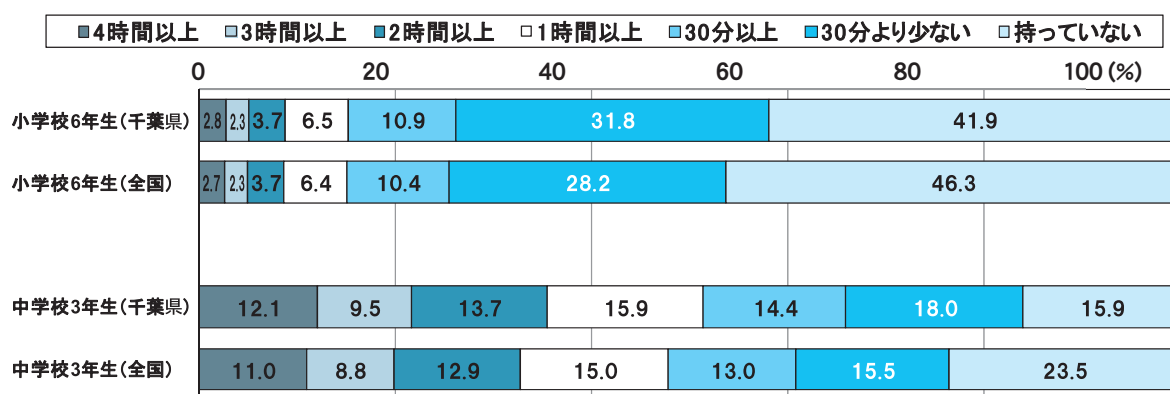


## 5 情報化（デジタル化）の進展

- 現在は、ワイヤレス・ブロードバンド<sup>注2</sup>やクラウド<sup>注3</sup>の普及、ソーシャルネットワーク<sup>注4</sup>利用拡大など、ネットワーク・サービス環境の進化に加え、スマートフォンの急速な普及により、「いつでも、どこでも、何でも、誰でも」ネットワークにつながり、インターネット上に展開する様々なサービスの利用が広がっています。
- 諸外国と比べ、「電子商取引」、「交通・物流」の分野で日本のICT<sup>注5</sup>の利活用は比較的進んでいますが、「安全・安心」、「医療・福祉」などとともに、「教育・人材」の分野における利活用は遅れています。
- ICTの利活用推進においては、スマートフォン等を狙ったマルウェア<sup>注6</sup>の増加など、新たなリスクも生じており、コンピューターウィルスの感染や個人情報の流出などに対して、情報セキュリティ対策の充実を図るとともに、子どもたちに対しては、情報モラル教育を促進させていく必要があります。
- 本県におけるICTを活用して指導できる教員の割合は、全国に比べて低いことから、ソフト・ハードの両面におけるICT環境の整備が求められます。

### 児童生徒の1日当たりの携帯電話やスマートフォンの使用時間（ゲームによる使用時間を除く）



出典：文部科学省「平成26年度全国学力・学習状況調査」

注2 ブロードバンド：DSL回線、光回線、ケーブルテレビ回線、高速の携帯電話回線をはじめとした、高速・超高速通信を可能とする回線をいいます。

注3 クラウド：クラウドコンピューティングの略です。インターネット上のネットワーク、サーバ、ストレージ、アプリケーション、サービスなどを共有化して、サービス提供事業者が、利用者に容易に利用可能とするモデルのことです。クラウドコンピューティングには主に仮想化技術が利用されています。

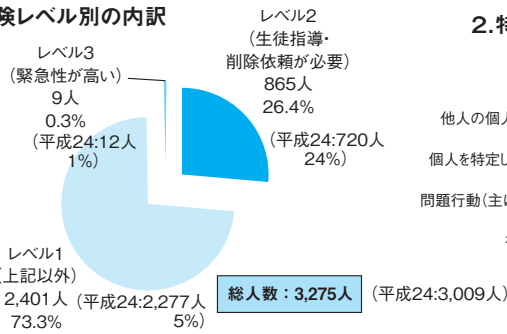
注4 ソーシャルネットワーク：登録された利用者同士が交流できるウェブサイトの会員制サービスのことで。

注5 ICT：Information and Communication Technologyの略です。情報通信技術のことを指しています。

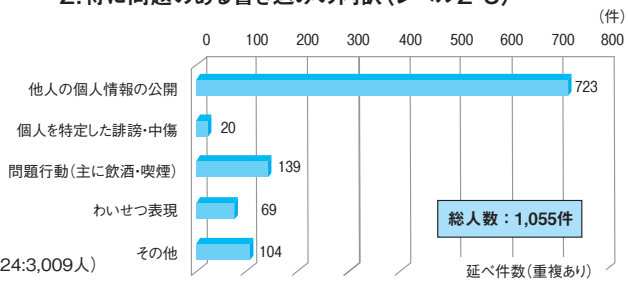
注6 マルウェア：コンピューターウイルス、ワーム、スパイウェアなどの「悪意のこもった」ソフトウェアの総称です。

## ネットパトロールの実施状況

### 1.危険レベル別の内訳

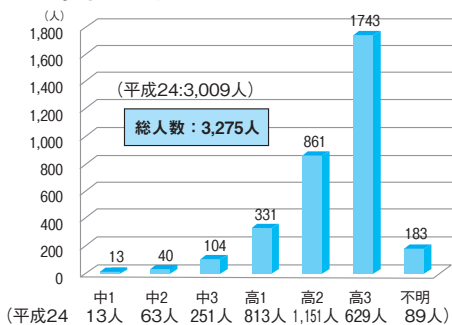


### 2.特に問題のある書き込みの内訳(レベル2・3)

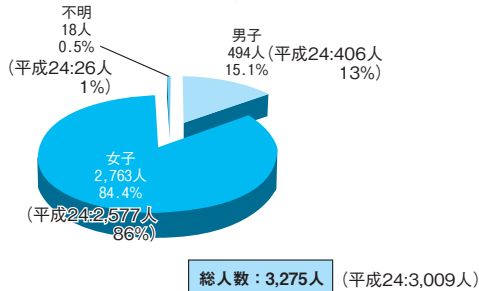


※レベル3、2は、教育委員会へ情報提供し、生徒への指導・対応を依頼

### 3.学年別人数



### 4.男女別人数

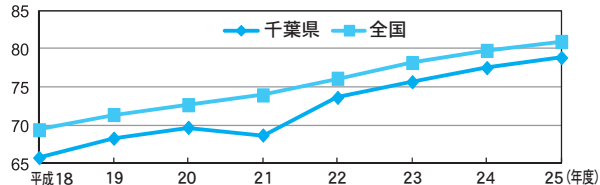


出典：千葉県環境生活部県民生活文化課

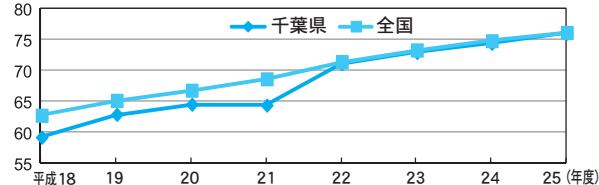
「平成25年度青少年ネット被害防止対策事業（ネットパトロール）の実施結果について」

## ICTを活用して指導できる教員の割合

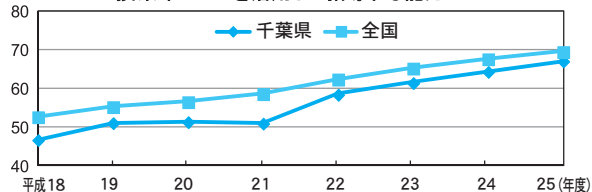
(%) 教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力



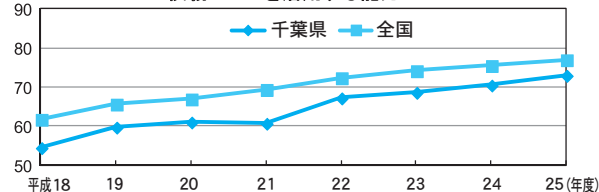
(%) 情報モラルなどを指導する能力



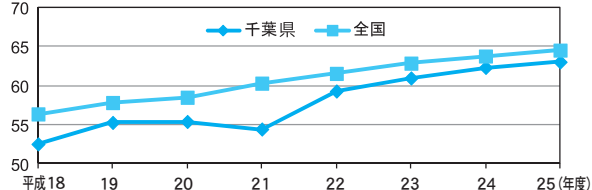
(%) 授業中にICTを活用して指導する能力



(%) 校務にICTを活用する能力



(%) 児童・生徒のICT活用を指導する能力

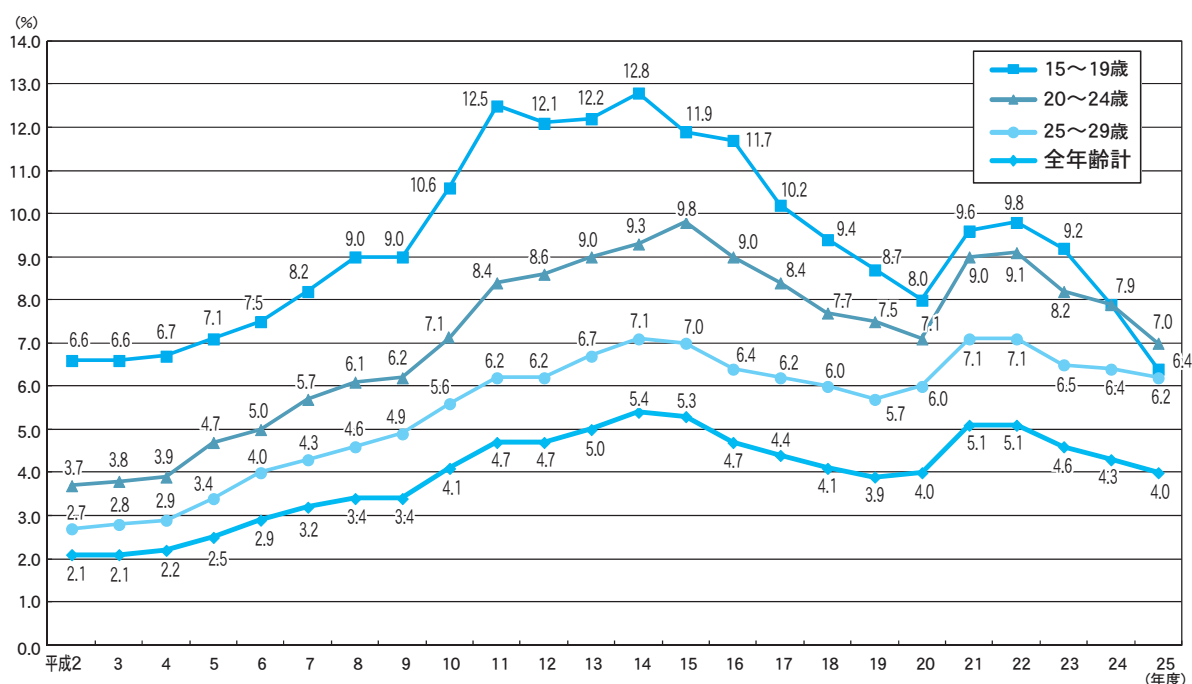


出典：文部科学省「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」

## 6 雇用環境の変容と社会的・経済的格差の進行

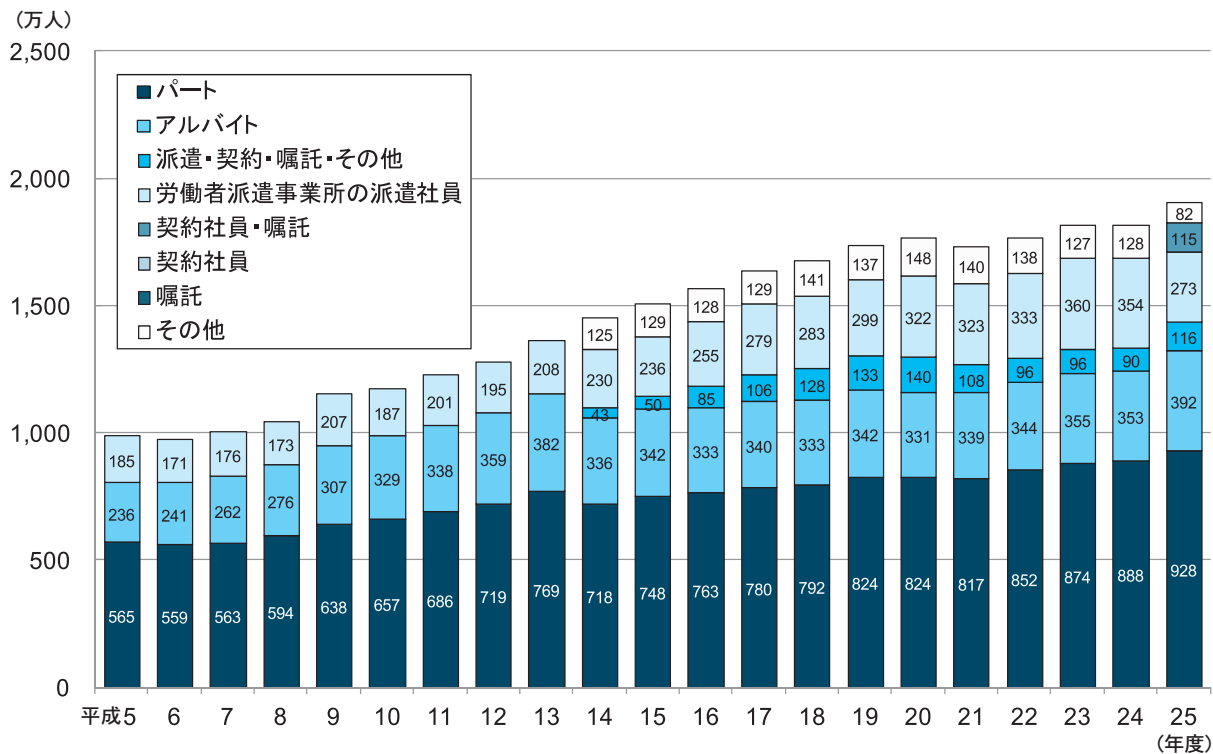
- サービス産業の拡大、国籍を問わない人材採用、成果・能力重視の賃金制度の導入など、終身雇用・年功序列といったかつての雇用慣行が変容しつつあり、従来の企業内教育による人材育成機能の低下が懸念されています。また、就職ミスマッチなどの問題を背景として、若年者の失業率・非正規雇用の割合が増加するなど、若者を取り巻く雇用環境は、依然として厳しい状況にあります。
- 地域間格差、世代間・世代内の社会的・経済的格差などの一層の進行が指摘されており、教育やその後の就業の状況などとあいまって、格差の再生産・固定化が進行し、それが社会の活力低下や不安定化につながることを懸念されています。

青少年失業率 [推移]



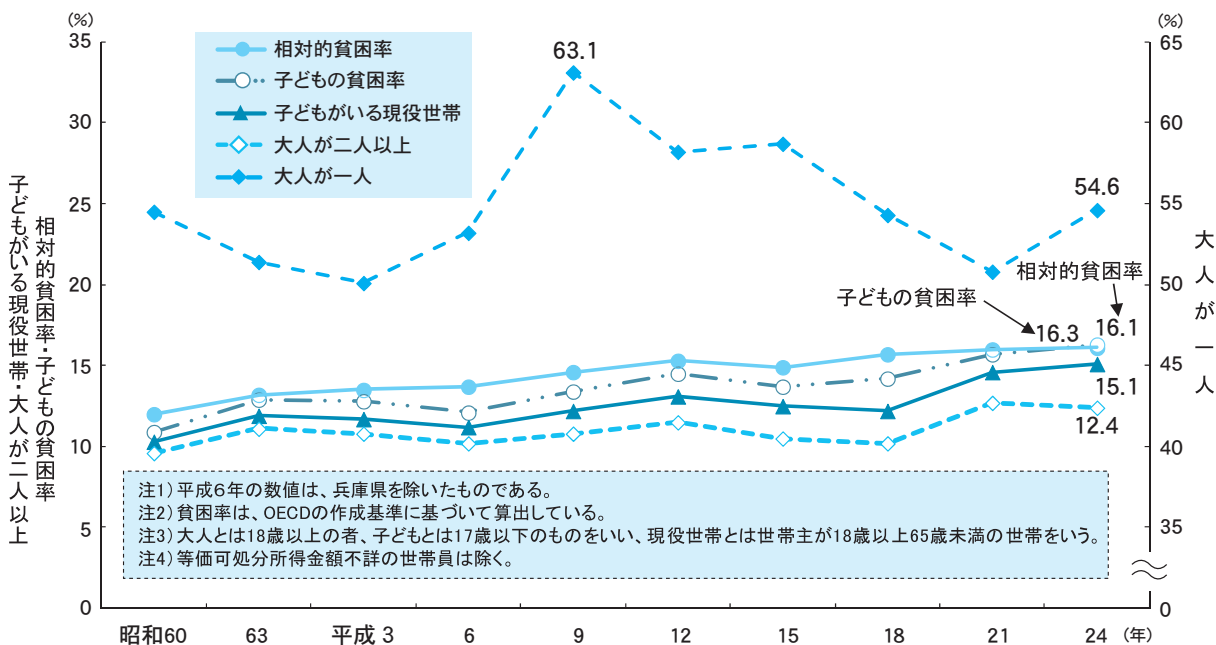
出典：総務省統計局「労働力調査」

### パート、派遣、契約社員等 [推移]



出典：総務省統計局「労働力調査特別調査」（～平成13）、「労働力調査」（平成14～）

### 貧困率の年次推移



注1) 平成6年の数値は、兵庫県を除いたものである。  
 注2) 貧困率は、OECDの作成基準に基づいて算出している。  
 注3) 大人とは18歳以上の者、子どもとは17歳以下のものをいい、現役世帯とは世帯主が18歳以上65歳未満の世帯をいう。  
 注4) 等価可処分所得金額不詳の世帯員は除く。

出典：厚生労働省「平成25年 国民生活基礎調査」

## 2 第1期計画の検証と今後の重要課題 ……………

### 1 第1期計画の検証

第1期計画については、年度ごとに点検・評価を行い、その成果と課題を分析し、改善を図りながら推進してきました。

3つのプロジェクトについては、それぞれ最終成果指標等に基づいて、以下のように評価しています。

#### 【プロジェクトⅠ】 過去と未来をつなぎ世界にはばたく人材を育てる

##### ～夢・チャレンジプロジェクト～

最終指標<sup>※1</sup>が80.9%となり、平成20年度比1.9ポイントの増となっていますが、最終指標の目標値85.0%と比べ、やや隔たりがあります。

また、各施策の指標については8指標中7指標で策定当初からの上昇が見られますが、既に目標を達成したものは2指標にとどまっています。

なお、参考指標として掲げた「学習指導」に関する項目については、「満足」「概ね満足」と回答した生徒の割合（高等学校）が上昇しています。

今後は、基礎学力の底上げや学習意欲の向上を図るなど、児童生徒の学力向上施策の更なる充実に努める必要があります。

※1 プロジェクトⅠの最終指標:学校評価における保護者アンケートにおいて、「学習指導」に関する項目について「満足」「概ね満足」と回答をした保護者の割合

#### 〈具体的成果〉

- ちばっ子「学力向上」総合プランの実施、「ちばのやる気」学習ガイドや「学びの突破口ガイド」等の作成、活用や学習サポーターの派遣など学力向上に向けた取組の推進
- スーパーサイエンスハイスクール<sup>注7</sup>など理数教育の充実
- 「夢チャレンジ体験スクール」などによる夢を育む教育の充実
- ちーばくん・ふるさと・ことばかるたの作成や活用など郷土について学ぶ教育の充実

#### 【プロジェクトⅡ】 ちばのポテンシャル（潜在能力）を生かした教育立県の土台づくり

##### ～元気プロジェクト～

最終指標<sup>※2</sup>が平成20年度の84.1%から87.2%となり、平成22年度から4年連続で目標である85.0%を超えています。各施策の指標では、計画当初と比較すると、23指標中19指標において

※2 プロジェクトⅡの最終指標:学校評価における保護者アンケートにおいて、「子どもの様子（規範意識や協調性）」に関する項目について「満足」「概ね満足」と回答をした保護者の割合

注7 スーパーサイエンスハイスクール（SSH）:文部科学省が科学技術や理科・数学教育を重点的に行う高校を指定する制度。理数系教育の充実に図り、未来を担う科学技術系人材を育てることをねらいとしています。

上昇しており、事業も円滑に進捗していることから、「概ね順調にすすんでいる」と評価しています。

### 〈具体的成果〉

- ブックスタート事業実施市町村の増加、確かな学びの早道「読書」事業など、読書活動の推進
- 「キャリア教育の手引」などを活用した系統的なキャリア教育の推進
- 新たな教職員研修体系に基づく教職員研修の推進
- 高校での「道徳」を学ぶ時間の導入、DVD等千葉県独自の道徳教材の作成
- 私学助成の拡充
- ゆめ半島千葉国体、ちばアクアラインマラソンの開催
- 特別支援教育支援員の県立高等学校への配置
- 地域連携アクティブスクールや、県立学校におけるコミュニティ・スクールの設置
- 地域安全マップの作成など交通安全・防犯・防災教育の推進

## 【プロジェクトⅢ】 教育の原点としての家庭の力を高め、人づくりのために力を つなげる ～チームスピリットプロジェクト～

最終指標<sup>※3</sup>が平成20年度の82.0%から85.4%となり、目標値の85.0%を超えています。加えて、参考指標として掲げた学校評価における保護者等に対するアンケートにおいて、「学校運営」に関する項目に対して肯定的な回答をした保護者の割合は平成20年度の83.4%から87.7%に上昇しています。

また、各施策の指標では、6指標全てにおいて上昇しており、うち5指標については目標を達成しています。事業も円滑に進捗していることから、「順調にすすんでいる」と評価しています。

※3 プロジェクトⅢの最終指標：学校評価における保護者アンケートにおいて、「学校・家庭・地域が連携して子どもを育てる環境が整っている」と回答した保護者の割合

### 〈具体的成果〉

- 親力アップいきいき子育て広場<sup>注8</sup>の内容充実など家庭教育・親の学びの支援
- スクールカウンセラー<sup>注9</sup>、スクールソーシャルワーカー<sup>注10</sup>の配置による教育相談体制の整備
- 学校運営（授業）への民間人・地域人材の活用
- 千葉県いじめ防止基本方針の策定

注8 親力アップいきいき子育て広場：乳幼児期から中学校期の大切な成長期の子育てを支援するため、子どもの生活習慣や学習習慣、親の関わり方などに関する知識や手立て、地域の子育て情報などを幅広く提供するウェブサイトです。

注9 スクールカウンセラー：学校における教育相談体制の充実・強化を図るために臨床心理士等、心理臨床の専門的な知識・経験を有し、児童生徒のカウンセリングや保護者・教職員等の助言・援助を行う専門家です。

注10 スクールソーシャルワーカー：児童生徒の問題状況に応じて、家庭や学校、医療・福祉等の関係機関との連絡調整を行い、関係機関との連携を通じ、児童生徒の問題解決を支援していく教育・福祉の専門家です。

## 2 今後の重要課題

第1期計画では、『『ふれる』、『かかわる』、そして『つながる』』という基本的な取組方針の下、地域そのものを「大家族」として捉える発想に立って、取組を進めたことにより、一定の成果を上げることができました。

しかしながら、第1期計画に掲げた「10年後の子どもたち、家庭、学校、地域の姿」の達成に向けては、依然として様々な課題があります。

特に、社会を生き抜く力の確実な育成、社会的・職業的自立に向けた能力・態度の育成、社会のグローバル化に対応した教育の展開は、社会の急激な変化に伴い、これまで以上の取組が求められます。

また、この間に行われた様々な教育改革の動きや教育格差への対応、地方創生など、新たな課題も浮かび上がってきています。

### (1) 確かな学力の育成

今後も続く、変化の激しい社会を子どもたちが主体的、創造的に生き抜いていくためには、基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得が必要です。また、学んだ知識や技能を様々な領域で活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、さらに、主体的に学習に取り組む態度を含めた学力が求められます。

### (2) 豊かな心の育成

これからの社会では、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることや、人間の幸福と社会の発展の調和的な実現を図ることが、一層重要な課題になります。これまでの実績を踏まえつつ、道徳教育の更なる充実を図り、全ての子どもたちに、人生をよりよく生きるための基盤となる意識や態度を育てる必要があります。

### (3) 健やかな体の育成

運動する子としない子の二極化を防止し、生涯にわたって、たくましく生きるための健康・体力づくりに、より一層取り組むことが必要です。

### (4) キャリア教育の充実

変化の激しい時代の中で、子どもの社会的・職業的自立に向けた能力を育み、地域社会を支える人材の育成を図ることが必要です。

### (5) グローバル化に対応する能力の育成

社会や経済のグローバル化に対応し、日本人としてのアイデンティティと異文化理解の精神を培い、チャレンジ精神や英語等の語学力、コミュニケーション能力を育成し、様々な分野で活躍できる人材の育成が重要です。

### (6) いじめ防止対策の推進

いじめ防止対策推進法や千葉県いじめ防止対策推進条例の制定などを踏まえ、誰もがいじめの当事者となることのない環境を整えることが求められています。

### (7) 幼児教育の充実

生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児教育の重要性を踏まえ、質の高い幼児教育・保育を総合的に提供するとともに、小学校教育への円滑な移行に向けた取組が必要です。

### (8) 特別支援教育の推進

障害のある子どもが、その能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加することができるように支援するとともに、共生社会を形成する基礎となる特別支援教育の一層の推進が求められています。

### (9) 地域コミュニティの形成

学校・家庭・地域が連携して一体となった教育を推進していくことにより、家庭教育力や地域教育力の向上を図っていく必要があります。また、学校や社会教育施設を核として、県民が学び合い、支え合う地域コミュニティを形成し、生涯学習社会をつくりあげていく必要があります。

### (10) 学びのセーフティネットの構築

様々な困難を抱えている子どもや若者に対して、学び直しの機会を提供したり、就学を支援したりすることにより、教育格差の固定化解消に向けた取組が必要です。

## 3 第1期計画から第2期計画へ

これまで述べてきた千葉県教育をめぐる現状や、第1期計画の検証と今後の重要課題及び「光り輝く『教育立県ちば』を実現する有識者会議」における意見等を踏まえ、第2期計画においては、以下の点に、より重点を置いて取り組むこととしました。

- これからの社会を生き抜いていくためには、一人一人が志を持って主体的に学び続けることが大切であることから、志を持ち、様々なことに果敢にチャレンジしていく子どもたちの育成を大きなプロジェクトの一つとする。(23ページ参照)
- 千葉県の子どもたちに育みたい資質・能力として「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」、「社会的、職業的自立に向けた能力」及び「グローバル化に対応した能力」をより明確に示し、学校、家庭、地域一体となって育てていく環境をつくる。(23ページ参照)
- いじめ防止対策や人格形成の基礎を培う幼児教育については、それぞれ新たに重点施策に位置付け、取組の充実を図る。(いじめ防止対策：65ページ参照、幼児教育：69ページ参照)
- 生涯学習社会の実現を新たに重点施策に位置付け、県民が学び合い、支え合う地域コミュニティの形成に向けた取組などの充実を図る。(95ページ参照)
- 特別支援教育については、早期から学校卒業後の暮らしまでを一体的に再構成し、一人一人の教育的ニーズに応じた取組の充実を図る。(72ページ参照)
- 学びのセーフティネットとして、経済的・家庭的理由など様々な困難への支援や学び直しの視点を踏まえて取組の充実を図る。(101ページ参照)



# 3 千葉県教育の目指す姿 .....

## 1 10年後の子どもたち、学校、家庭、地域の姿

第1期計画においては、県民の教育への思いを基に、千葉県の子どもたちや学校、家庭、地域の10年後の姿を次のように描きました。

### 【元気な子どもたちの姿】

- 学校や地域における様々な体験を通じて、子どもたちが道徳性や豊かなコミュニケーション能力を身に付けている。
- 身近な地域の歴史や伝統文化に親しみ、郷土と国に誇りと愛着を持った子どもが育っている。
- 全ての子どもたちが基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、自ら考え、表現し、問題を解決する力を伸ばしている。
- 子どもたちが早寝早起き、食事、運動などバランスのとれた生活習慣を身に付け、健やかな体が育まれている。
- 子どもや若者が生まれてきてよかったと思える自己肯定感にあふれている。

### 【元気な学校・家庭・地域の姿】

- 子育てや家庭教育に悩んでいる保護者が気軽に相談できる環境が整い、家庭の教育力が高まっている。
- 子どもや若者が健やかに育つための地域コミュニティが形成され、地域には元気で明るい挨拶の声が響き、学校・家庭・地域が一体となって、子どもや若者の成長を支えている。
- 子ども一人一人の個性が輝き、希望や能力を引き出すことができる学習環境が整っている。
- 子どもたちがいじめや暴力などに悩むことなく学校に楽しく通い、子どもや保護者などからの学校への信頼が高まっている。
- 障害のある子どもたちへの理解や支援が広がり、障害のある子どもたちと、障害のない子どもたちとが、地域で共に学び、子どもたちの笑顔があふれている。
- ニート<sup>注11</sup>や引きこもり、不登校だった子どもや若者たちが、周りの温かい支援によって、生き生きと勉強や仕事に取り組んでいる。
- 子どもや若者を取り巻く有害な環境をなくすための取組が、地域全体で進められている。

注11 ニート (NEET: Not in Education, Employment or Training): 就業せず、求職活動もしていない人のうち、家事も通学もしていない15歳から34歳の人のことをいいます。

### 【元気な県民の姿】

- 多くの県民が日常生活の一部として運動に親しみ、体力の向上が図られており、また、文化活動を通じ、心豊かに暮らす人が増えている。地域には活気があふれ、「元気な千葉県」として知られている。
- 高い目標を持ってスポーツや文化・芸術活動に取り組み、全国的に活躍している人が増えている。
- 地域の人たちによって埋もれていた伝統文化が復活し、その文化が多くの人たちとの交流を生み、更に新しい現代的な要素が取り入れられるなど、ちば文化の魅力が増している。
- 県民の県内交流が積極的に行われ、県民一人一人が、様々な千葉県の魅力を再発見することにより、千葉県に愛着や誇りを感じられるようになっている。

本計画においても、第1期計画を継承し、引き続き、こうした姿の実現を目指し、県民の力を結集して取り組みます。

## 2 基本目標

こうした目指す姿の実現に向け、この計画の基本目標を以下の3点のプロジェクトとして掲げました。いずれのプロジェクトを進めるに際しても、共通して大切なことは、千葉県の持つ素晴らしいポテンシャルと同様に、県民一人一人が持つよさが認められ、これを伸ばしていけることです。特に、将来を担う千葉の子どもたちが生き生きと育っていくことができるよう、学校、家庭、地域のいずれにおいても、子どもたちの自尊感情<sup>注12</sup>（自己肯定感や自己有用感など）を育み伸ばすことを根底に据え、取組を進めていくことが大切です。

### プロジェクトⅠ 志を持ち、失敗を恐れずチャレンジする人材を育てる

#### ～夢・チャレンジプロジェクト

子どもたちが、変化の激しい社会を生き抜く基盤として、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」のバランスがとれた「生きる力」を身に付けることが重要です。また、今後、子どもたちに求められる資質・能力として、社会的・職業的自立に向けて必要となる勤労観・職業観の育成や、社会のグローバル化に対応し、郷土や国を愛し、世界に通じる人材の育成が求められます。これらの資質・能力を身に付けるため、読書活動などの言語活動や体験活動を重視しながら、公立と私立の幼稚園、保育所から高等教育機関までが連携し、協働して、自らの生き方を考え、志を持ち、失敗を恐れずにチャレンジする精神に溢れた人材の育成に取り組みます。

注12 自尊感情：自分を価値のある存在として尊重する感情であり、高い人は自分をより肯定的に捉え、低い人は自分を否定的に考えやすくなります。（自尊感情を高めるためには、自分は大切にされている、自分は必要とされているといった、他者からの賞賛や承認、評価が影響してきます。）

## プロジェクトⅡ ちばのポテンシャル（潜在能力）を生かした教育立県の土台づくり ～元気プロジェクト

千葉県の子どもたちは、読書活動や体力・運動能力、音楽などの面で、全国的に優れた実績を有しています。また、千葉県は、首都圏に位置し、豊かな自然やバランスの取れた産業、技術や人材の集積、野球やサッカー、陸上競技など一流アスリートと触れ合う機会など、人づくりの環境に恵まれています。こうした千葉県のポテンシャル（潜在能力）を最大限に活用し、子どもたちが自然や人に触れ、社会に参加する活動を推進し、知・徳・体のバランスの取れた元気な人材を育てる教育環境、すなわち「教育立県ちば」の土台をつくります。

## プロジェクトⅢ 教育の原点としての家庭の力を高め、人づくりのために力をつなげる ～チームスピリットプロジェクト

家庭教育は、全ての教育の出発点といえるものであり、子どもが基本的な生活習慣などを身に付ける上で重要な役割を担うものです。その一方で、核家族化や都市化の影響などにより、子育てや家庭教育を支える環境が変化し、子育て中の親が孤立しがちな傾向にあります。こうした中、全ての親が家庭教育を安心して行えるよう、地域社会が一体となって支援していく必要があります。

また、地域住民の絆きずなを深め、つながりや支え合いによる地域コミュニティの形成や、学校、家庭、地域、企業、高等教育機関、千葉県教育を担うパートナーである公立学校と私立学校などの力強い連携により、人づくりの力を結集して教育立県「ちば」を実現します。

## 4 基本的な取組方針 .....

子どもたちが、社会を生き抜く力を身に付け、地域社会の担い手として、また、世界を舞台に活躍する人材として成長していくためには、豊かな自然や多くの人々、様々な知識や技能に触れ、関わり、つながっていくことが必要です。

また、子どもたちの教育に直接携わる学校や家庭はもとより、地域の住民や企業なども「全ての大人が子どもの育成に関わる」という自覚を持ち、つながることによって、互いに支え合うコミュニティを形成することが、地域全体の教育力の向上につながります。

そこで、この計画では第1期計画の取組方針を引き継ぎ、

### 「ふれる」、「かかわる」、そして「つながる」

を基本的な取組方針とします。